

# センター試験 地学 I (本試験) 分析

## 全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：5題	解答数：30問
難易度の変化（対昨年比）	○ 難化    ○ やや難化	● ほぼ同じ    ○ やや易化    ○ 易化
問題の分量（対昨年比）	○ 多い	● ほぼ同じ    ○ 少ない
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p>総評</p> <p>分量や出題傾向にあまり変化はなく、各単元から偏ることなく出題された。グラフや模式図を元に考察させる問題が増え、単なる知識の暗記では太刀打ちできない設問も見られるので、図表を多用した問題形式に早くから慣れることが必要である。</p>		

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	A-地球のマントルと核 B-地震	20点	固体地球に関する基礎的な知識を問うもの、図やグラフを解釈させるもの、そして簡単な計算をさせるものが含まれている。これは昨年度の出題形式と同じで、難易度にはあまり変化がない。
第2問	A-深成岩・変成岩 B-火山岩	20点	昨年同様図やグラフをもとに岩石や鉱物の特徴を考察させる問題である。標準的なレベルではあるが単なる知識の暗記だけでは正解できない。与えられたデータをもとに知識を活用する能力が必要とされた。
第3問	A-地質と生物の変遷 B-堆積物の侵食・運搬・堆積	20点	地質構造の推定、さらに示準化石から層序（地層の堆積順序）を決定する標準的な出題である。ただし、丹念に図やグラフを読み取らなければならない。Bは、グラフの読解力が必要とされる。
第4問	A-温帯低気圧と天気 B-海水の循環	20点	天気図をもとに気象現象を考察する標準的な問題である。普段から天気図や模式図を利用しながら学習していないと解答には至らない。受験生の苦手とする大気の安定度が出題された。海洋分野の出題は正確な知識があれば、容易に解答できたであろう。
第5問	A-太陽系天体 B-天体のスペクトル	20点	ケプラーの法則に関する計算問題が出題されたが、極めて基礎的な問題であった。それ以外は標準的な知識の問題であるが、厳密さが必要とされる。テクニカルタームの曖昧な理解では対処できない。